

長野県精神保健福祉士協会 会員研修会
令和5年度 実践・研究報告会

座長 東條 知子氏
NPO 法人ハートラインまつもと
(松本市障がい者基幹相談支援センター)

1	発表者	赤羽 結衣 (医療法人清泰会 メンタルサポートそよかぜ病院)
	テーマ	当院デイ・ケア利用者層の傾向と今後の課題
	発表要旨	当院では小規模デイ・ケアを運営開始し、26年を迎える。登録者数29名、1日の平均利用者数は12名ほどで平均年齢は58歳と精神科デイ・ケアとしては年齢層が高い傾向にある。緩やかな対人交流を保ちつつ、利用者それぞれの回復に「必要な」時間に寄り添った支援を大切にしている。利用者層の傾向と日々の支援からみえた今後の課題について考察を行ったので報告させていただく。
2	発表者	押澤 利彦 (社会福祉法人 中信社会福祉協会 障害者支援施設 梓荘)
	テーマ	「リカバリー」実践報告 ～エンパワメントアプローチの具体的実践課程～
	発表要旨	本事例は『精神保健福祉士基幹研修Ⅱ・Ⅲ』受講及び、令和5年5月MHSW (PSW) 中信地区学習会に提示した事例・その内容を本発表用に抜粋したものです。 あらかじめ、Kさん御本人の許可はじめ、所属施設の長の承認・目通しを得ています。 (発表の主旨) 1. 空っぽの情報提供書から始まった通所生活介護… 2. 右片麻痺、車椅子、失語、無表情、無反応、突然怒る、かかわり拒否… 3. 転機… Q:食べたいものは? A:「や き そ ば」 4. 壮絶なドミナント・ストーリー…光り輝くオルタナティブ・ストーリー… 5. 自身の手で機会を掴む ～「自信」の回復は「自身」の回復～ 6. 人生の再構築… 残された課題… 7. おわりに… そして、今もリカバリー…
3	発表者	柴崎 裕子 (松本西訪問介護 ST)
	テーマ	訪問介護の現場における精神保健福祉士の倫理綱領に基づいた実践
	発表要旨	現在訪問介護事業所にて、地域で暮らす障がいを持つ方の在宅支援を行っています。基本はケアマネージャーが作成したケアプランに基づきサービスの提供を行いますが、ご利用者様の中には、ご自身が思っていることを伝えられない方や、会話での意志疎通が難しい方もいらっしゃいます。 制限のある中でも、精神保健福祉士として大事にしていることは、ご利用者様の立場・視点に立って、ご本人が主体的にどうしたいかを「自己決定」するための援助を行うということです。そのために普段の業務の中で倫理綱領は欠かせない存在だと考えています。
4	発表者	荒川 豊 (社会医療法人 城西医療財団 豊科病院)
	テーマ	市議会への陳情の実践は正しかったのか(仮題)
	発表要旨	当院の家族会は、2018年度に市議会へ、精神障がい者の医療費助成制度について陳情を行った。MHSWが家族会の事務局を務めているため、陳情書の作成や市議会議員へ家族会への出席を要請するなど準備を進め、そしてご家族とMHSWが市議会に出席し、意見陳述を行った。そして当方の陳情内容が市議の全員一致で採択された。 MHSWは、当事者のニーズ(制度の改善希望)を把握するとともに、そのニーズに対して「権利擁護の視点」といった専門性をもって援助をした。この陳情と採択はMHSWだけでは実現しなかったと思われ、当事者の力とともに当事者の方々と協働で取り組めたことは、MHSWならではの実践といえるだろう。 当時は「当事者のニーズに沿う」という一心で、何の根拠もなく取り組んだ実践だが、時を経て、その実践が正しかったのか、今、問い質す。

*発表時間は1演題あたり15程度(質疑応答を入れて20分)